

[成果情報名] 日焼けの発生が多い中晩生カンキツ品種とその発生実態

[要約] 日焼けの発生が多い中晩生カンキツは「せとか」で、8月中旬から9月中旬に多く発生する。また、1樹の中で南面の樹冠上部に着果した果実に発生が多い。

[キーワード] カンキツ、日焼け、せとか

[担当] 農林技術開発センター・果樹研究部門・カンキツ研究室

[連絡先] (代表) 0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

気候温暖化の進展によりカンキツでは果面が黄化褐変する日焼け果実が増加しており、日焼けの発生を軽減することが生産上の大きな課題となっている(写真1)。そこで、中晩生カンキツにおける日焼け発生の実態を把握するため、発生程度の品種間差異を調査し、発生が多い品種について着果部位別の発生程度を明らかにした。

[成果の内容・特徴]

1. 日焼けの発生度は品種によって大きく異なり、「せとか」が最も高い(図1)。
2. 日焼けの発生度は9月中旬に最も高くなるが、日焼けの程度が軽いものは着色が進むにつれて外観上、目立たなくなるため成熟期になると発生度は低下する。
3. 日焼けの発生が多い「せとか」でも着果位置によって発生果率や発生度は大きく異なり、南面の樹冠の上部に着果した果実ほど日焼けになりやすい(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 露地栽培での調査結果である。
2. 日焼けの発生程度及び発生時期は日射量、気温などの気象条件によって異なる。
3. 日焼けの発生が多い品種では発生を軽減するための技術確立の検討が必要である。

[具体的データ]



写真1 「せとか」の日焼け果

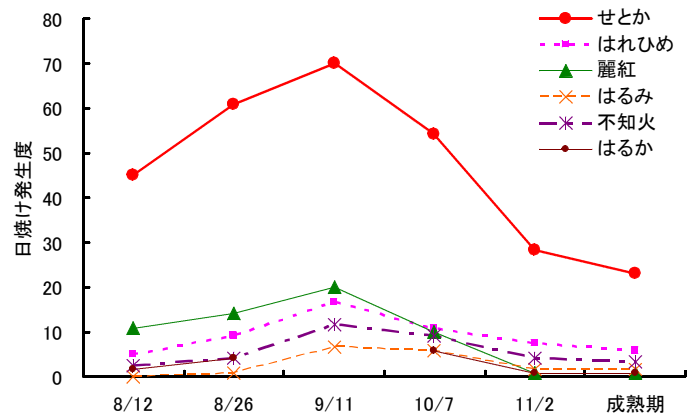


図1 主要な中晩生カンキツ品種における日焼け発生度^yの経時的変化 (2009)

$$^y \text{日焼け発生度} = \frac{\text{無} \times 0 + \text{軽} \times 1 + \text{中} \times 2 + \text{甚} \times 3}{\text{全体の個数} \times 3} \times 100$$

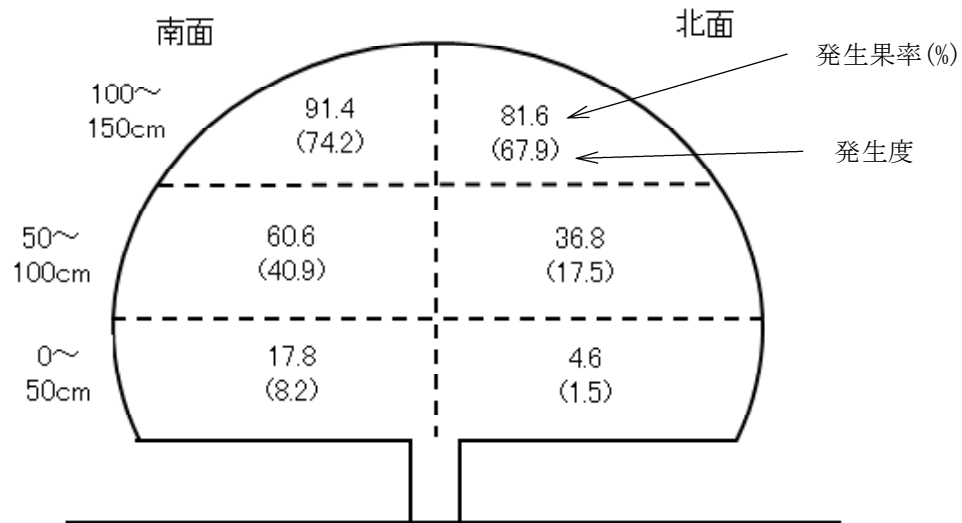


図2 「せとか」の方位別、階層別の日焼け発生程度 (3樹平均、2009年9月11日調査)

[その他]

研究課題名：気候温暖化に対応したカンキツ栽培技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2009～2013年度

研究担当者：林田誠剛